

(文責) 校長 渡辺英一郎

○ もうすぐ学力テスト

9月に入ると2週にわたって学力テストが行われます。1・2年生は9月2日(火)に4教科(技能教科)、9月11日(木)に5教科、あわせて9教科のテストが行われます。1年生にとっては初めての4教科のテストになります。

3年生は、6月に4教科のテストを実施しているため、9月2日(火)に静岡県学力診断調査、9月11日(木)に5教科の定期テストを行います。学力診断調査は義務教育で学習した範囲、定期テストは6月以降に学習した範囲から出題されるため、幅広く深い知識と技能が求められます。

○ まだまだ暑い9月 熱中症対策をお願いします

9月と言えば暑さも一段落し、朝夕は過ごしやすくなる季節だという感覚も、すでに過去のものになろうとしています。長期の天気予報では9月中も35度を超える猛暑日となる日があるということです。

そこで心配されるのが熱中症です。夏休み中にエアコンの効いた室内にいたことが多かった生徒は、暑さに体が対応できないことがあり、登下校中や保健体育の授業での熱中症が心配されます。十分な睡眠時間を取る、食事をしっかりと食べる、こまめに水分と塩分を摂取するなど、ご家庭でできる対策をお願いします。

○ 令和7年度 湧水祭のお知らせ

合唱の部 10月 9日(木) 沼津市民文化センター 大ホール
体育の部 10月 24日(金) 清水中学校グラウンド

今年度は上記の日程で湧水祭を実施します。休日や祝日でないため、保護者の皆様にはご不便をおかけしますが、すべての生徒が参加できるようにするために平日の開催となっております。

生徒の安全を考慮し、参観はご家族のみに限らせていただきます。詳細につきましては後日お知らせいたします。

○ 湧水祭へ向けた取組

夏休み明けより、湧水祭に向けた動きが本格的になってきました。9月4日からは放課後の学級練習も始まります。そのため、日課終了時刻が遅くなりますことをご承知おきください。

9月 4日(木)～9月12日(金)	放課後 15分	合唱練習
9月16日(火)～9月25日(木)	放課後 25分	合唱練習(移動時間を含む)
9月26日(金)～10月21日(木)	放課後 25分	湧水祭練習(移動時間を含む)

〈湧水祭に関連する9月の主な予定〉

9月8日(月) カラー集会
～10日(水)

9月12日(金) オープニングセレモニー(6時間目)

9月22日(月) 係全体会(放課後)

9月26日(金) 合唱中間発表

(3時間目：1年生 4時間目：2年生 5時間目：3年生)

○ 広島平和学習の振り返り

8月26日(火)の全校集会において、本校を代表して広島平和学習に参加した生徒の振り返りを発表しました。代表生徒が感じたことを本校生徒だけでなく、多くの方にお届けしたいため、発表した原稿を掲載します。

私は今回の研修で「平和」という言葉の意味について深く考えるようになりました。

まず、平和記念資料館を訪ねました。そこには被爆してボロボロになってしまった血だらけの服や黒こげの弁当、被爆した方々の写真などが展示されており、戦争や核兵器がどれほどの「命」「人生」を奪ってしまったのか、傷つけてしまったのかと考えさせられました。

被爆体験をお話してくれた八幡さんの被爆直後の話はとても生々しく、背筋が寒くなりました。八幡さんの見た犠牲者の中には国のために働いていた中学生、女学生の1、2年生が多かったと聞きました。楽しかった学校生活、大切な人、全てを一つの原子爆弾で失ってしまったのです。

私は研修の前、平和について思うことはあっても深く考えることがありませんでした。しかし、原爆投下から80年。被爆者の方々からの話を聞けることが少なくなった今こそ、これからの世界を支えていく私たちが、戦争によって起きた被爆の事実を知り、平和や命の尊さについて考え直さなければならないと感じました。「被爆の実相を伝え、世界に警鐘を鳴らし続けることが今を生きる私にできること」八幡さんがおっしゃった言葉です。この言葉を聞いたとき、これからの担う若い世代の私たちが平和について関心を持ち、深く考え、伝えていくことが必要なのだと思いました。

「戦争は終わっても、その人に残る苦しみは一生続いてしまいます。」

世界では今もどこかで絶えず戦争が起きています。武力で抑えるのではなく、互いを尊重し思いやり、話し合いをもつことが平和への近道となるのではないのでしょうか。

私も平和を創り上げていく一員として、相手のことを理解し考えに寄り添える人になりたいと思います。

2年 女子生徒

広島平和式典に参加した私は、一人の語り部の方のお話に深く胸を打たれました。小学生の頃に原爆を体験されたというその方の語る言葉には、時を超えた真実の重みがありました。

わずかゴルフボールほどの圧縮ウランが、一瞬で14万人もの命を奪ったそうです。原爆は当初、全国17か所に投下される計画があり、最終候補には広島、小倉、新潟、長崎の四都市が残っていました。広島は地形的に開けた盆地で、爆風の効果が高いとされ、また、上空から見えやすい丁字型の相生橋が目印にされたと言います。原爆は志摩病院の上空六百メートルで炸裂し、爆心地は四千度近い高温に包まれ、鉄さえも簡単に溶けてしまったとのことでした。

語り部の方は、「体が6メートル吹き飛ばされ、建物は次々と崩れた。」と語ってくださいました。周囲は土煙に包まれ、割れたガラスが矢のように飛び交い、すべてが静まり返ったそうです。避難先で降った雨は、放射性物質を含んだ黒い雨だったと言います。当時はその危険性を誰も知らず、被爆した人々は腕や顔に火傷を負い、まるで幽霊のような姿でさまよっていたそうです。

通っていた学校の校庭には多くの遺体が埋葬され、周囲には悲鳴やうめき声が響いていたと語っていました。食べ物を求めて近づいた白い紙袋の中には、亡くなった人の骨が入っていたと言います。肉親を捜し、せめてもの供養として持ち帰るためだったそうです。建物疎開に動員されていた多くの中学生や小学生たちは、一瞬にして命を奪われました。どれほど怖かったことでしょうか。どれほど無念だったことでしょうか。

語り部の方は、母親が「死ぬときはみんな一緒。」と布団をかけてくれたことを、今でも思い出すとおっしゃっていました。そして、「暴力ではなく、言葉で解決してほしい。」と強く訴えておられました。現在核兵器は広島に落とされたものよりはるかに強力なものが各国に存在しています。だからこそ、今を生きる私たちが、あの過ちを二度と繰り返さぬよう、格の恐ろしさと平和の大切さを受け継いでいかなければならないのだと感じました。

今の広島には、復興の中で生まれた文化やスポーツがあり、多くの人々が日々の幸せを噛みしめながら暮らしています。その姿に、語り部の方は「本当に平和でうれしい。」と目に涙を浮かべておられました。

私は、語り部の方が語ってくださった「生きた証」を、決して忘れません。平和とは、ただ戦争がないことではなく、人々が互いを思いやり、話し合いで未来を築いていくことだと思います。その想いを、私たちが次の世代へと語り継いでいくことが、平和への第一歩なのだと強く感じました。